

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 27 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鶴沼小伊木町3丁目170番1 (電話) 058-379-5411		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月20日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (平成 21 年 2 月 9 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	11,040~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 9 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東海中央病院、米倉胃腸科・外科、馬場医院(歯科)
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元の誰もが親しみを持つ伊木山を背に、大規模社会福祉法人を母体とする、複合体施設の1階に1ユニットのホームがある。開設から6年を迎え、地域との関わりも深めつつ、寄り添うケアをモットーに取り組み、現在9名の女性が入居中である。共用スペースのダイニング・キッチンには開放感があり、また、南に面した広い和室は、炬燵が置かれ多機能に活用されている。自室も、馴染みの家具やベッド等が配置されても十分な広さがあり、全てにゆとりとくつろぎが感じられる。廊下は、工夫を施した回廊式で、どこからでも、共用スペースに辿り着ける構造になっている。入居者の対応に、安心感と程よいプライバシーの配慮があり、ゆったりとした時間の流れを感じるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題であった非常勤職員の認知症研修等の参加については、各研修会の情報提供と共に毎月のケア会議の中でミニ研修を行うなど、職員間で出来ることから取り組んでいる。法人として、検討を要する門扉施錠については、運営推進会議に報告し、前向きに検討していく姿勢、気付きが認めら 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ハウスマネージャー(昨年10月にホームに異動)が中心となり、昨年の自己評価を再確認しながら、職員の意見を聞き、今年度の自己評価をまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事前に議題を提示し、出席を依頼している。利用者の状態や状況、施設行事、地域連携である小・中学生やボランティアの来訪、外部評価等の報告を行い、忌憚のない意見交換が交わされている。議事録をとり、施設会議に報告・検討し、支援に生かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ハウスマネージャーと膝を交えての個別面談を計画し、年2回それぞれの家族の思いや、不安に感じている現状、更に今後のことも含め、話し合う機会を4月から予定している。そこで得た家族の真情を、ホームの運営や支援姿勢に、反映できると考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 立地環境から住民が気軽に入出入りできないが、自治会行事(秋祭りに囃子の施設訪問・市民運動会見学等)や地域の学校行事(学芸発表会に小学校見学等)に出かけたり、また、地域活動として市民清掃(花火大会後の清掃等)を行うなど、地域行事に沿ってホームの予定を組み、積極的に参加している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人憲章とは別に、ホームとして「あじさいチーム憲章」を掲げている。その中に、「地域との積極的な関わり、地域行事へ参加したり、訪問しやすいグループホームを目指しましょう」がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出勤時、必ず入るスタッフルームに、「あじさいチーム憲章」が貼りだされている。勤務前に、自然に意識して読んでいると職員も答えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事(秋祭りに雛子の施設訪問・市民運動会見学等) や地域の学校行事(学芸発表会に小学校見学等) に出かけたり、また、地域活動として市民清掃(花火大会後の清掃等) を行うなど、地域行事に沿ってホームの予定を組み、積極的に参加している。	○	特別養護老人ホーム等大規模施設から事業を始めたため、地域との協働という意識が弱く、立地面からも地域住民との日々の関わりは難しいところもあるが、社会資源として法人が役割を担うことで、更なる地域との繋がりが密になることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題であった非常勤職員の認知症研修等の参加については、各研修会の情報提供と共に毎月のケア会議の中でミニ研修を行うなど、職員間で出来ることから取り組んでいる。法人として、検討を要する門扉施錠については、運営推進会議に報告し、前向きに検討していく姿勢、気付きが認められる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前に議題を提示し、出席を依頼している。利用者の状態や状況、施設行事、地域連携である小・中学生やボランティアの来訪、外部評価等の報告を行い、忌憚のない意見交換が交わされている。議事録をとり、施設会議に報告・検討し、支援に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所に市の関係者を招き、年に2・3回、現場の状況を見る機会を設けているが、直接関わる市担当者とグループホームとの連携が乏しい。	○	市担当者と協議し、市主催の伝達・勉強会、事例検討会などの取り組みが行われるよう、働きかけを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの全体的な生活状況は、「あじさい新聞」を発行し、3ヶ月に1度スナップ写真とコメントを満載し、わかりやすく家族に配信している。金銭管理も、安心な個別金庫預かりとなっている。	○	個々の生活ぶりは、面会時に家族に報告されているが、ハウスマネージャーと家族の個別面談が企画されており、より期待がもてる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ハウスマネージャーとの個別面談を計画し、年2回は、それぞれの家族の思いや、不安に感じている現状、さらに今後のことも含め、膝を交えて話し合う機会を4月から予定している。	○	個別面談から得られた、家族の真情がホームの運営や支援姿勢に反映され、よりきめ細かな実践となることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初からの勤務者もおり、平均勤務年数が4年強であることから、馴染みの関係は大切にされている。今回、人事異動でハウスマネージャーの交代が行われたが、ホーム発行の「あじさい新聞」でプロフィールや人となりなどを載せるなど配慮が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として、新規採用職員には1泊2日の合宿による集合研修を行っている。その他随時、エリア研修、施設研修、交換研修と、多彩な研修が企画されている。身近なグループホーム部会研修で認知症を取り上げる研修も行われ、技量の向上を推進している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はじめ職員は、認知症介護実践者研修・実践リーダー研修を受講し、同業者との勉強会に積極的に参加し取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物内にある、デイサービスやショートステイを利用して行く中で、馴染みながら受け入れが可能になるケースや、包括支援センターからの情報を元に、本人、家族と面談し時間をかけて入居を検討している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは、「寄り添うケア」をモットーに支援している。利用者から学ぶことが多く、若い職員は、「花嫁修業が出来る」と表現している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の前に、まず、デイリープランを個々に立て、日々の寄り添いの中や、本人との会話や日常生活の行動の中から、本人の意向や生活パターンを把握し、きめ細かな対応を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのデイリープランを基に、日常生活上の細かな把握から、3ヶ月の短期計画を作成し、担当者がホーム会議である「あじさい会議」にかけ、他の職員と検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、通常、3ヶ月に1度、見直している。事故や病気に対応が変化する場合は、関係者と検討し、介護計画の見直しが行われるが、今年度は、緊急に見直しが必要な事例は起きていない。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域交流行事の際は、併設事業所と一緒に参加し、地域の人達と触れ合う機会を設けている。また、日常的な買い物支援は、職員と1対1で、本人の買い物を一緒に行うなど、希望に応じて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は、本人および家族に任せ、現在の利用者では、ホーム協力病院に3名、近隣の病院に4名、遠方の病院に2名であり、家族が付き添い受診している。受診時のホームからの状況報告も、受診結果のホームへの報告も、家族を通して行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホーム本来のあり方を重視し、常時車椅子生活になり、ホームでの生活が困難と判断された場合、本人、家族と相談の上、法人が全面的なバックアップをし、希望する適切な施設への入所受け入れや紹介を行う旨、利用申し込み時に説明し、同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常寄り添うケアの中で、個々の生活歴や考え方をくみ取り、本人の秘める誇りや求めるプライバシーを尊重している。日々の記録は、パソコン入力され、必要な記録のみをプリントアウトし、取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合った無理のない1日が送れるよう、個々の生活パターンを把握し、デイリープランを作成している。押し付けるケアをせず、家庭生活により近い暮らしの再現を目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、利用者と接している職員6名で、献立を5日分ずつ立てている。主婦歴の長い職員が中心となり、食事作りをしているが、利用者も自然な形で、それぞれのやりたいこと、やれることに加わっている。	○	盛り付けや量など、利用者が個々に選び、楽しめる工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2人がゆったりと入れる浴室が用意されている。気の合った者同士、裸の付き合いが生まれそうな雰囲気があり、ミニ銭湯といった感じで楽しめる。基本的には、毎日入浴できるが、その日の本人の選択に任せている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操を毎日続けており、健康維持と気晴らしになっている。より近い家庭生活の再現をモットーにしており、食事の用意を一緒に行ったり、洗濯干しや取り込み、裁縫等自然な役割が出来ている。また、漢字の書き取りなども、利用者ペースで楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ウッドデッキから広い中庭に出て、自由に散歩することが出来る環境が整っている。日常の食材等の買出しにスーパーへ出かけたり、また、季節ごとの行楽を企画し、可能な限り全員でドライブに出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や、中庭への出入り口、玄関は、日中開錠されている。利用者の安全とプライバシーの保護を考慮し、門扉は施錠しており、外への出入りは、特別養護老人ホームの玄関を利用している。	○	車の通行等における安全面からの配慮は理解できるが、グループホームが地域密着の施設である観点からも門扉のあり方を、再考されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームと合同で避難訓練を実施している。ホームは、全室1階で、中庭に直ぐ出られるため、具体的な避難確認も、利用者と話している。地域との協力体制は、特別養護老人ホームが主体となって、検討している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食を声かけや、時間をかけて摂取している。食事の途中でも、米飯の残りを粥に炊きなおすなど、状況を見ながら職員が配慮している。水分は、自由に飲めるように、常時、急須にお茶が用意されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体に明るく、ゆとりのある間取りが施されている。廊下は両側に手すりが取り付けられ、高齢者への配慮がある。玄関先には、訪問者を和ます、折々のスナップ写真が貼られている。和室の炬燵、居間の雛飾りなど、一般家庭の生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族が用意した、馴染みの家具や小物が置かれ、住みやすいよう工夫がされている。家族写真や季節感のあるものが飾られ、家族との絆が感じられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNET に公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。